

## 第 1 1 章 今後の哲学堂公園の保存活用に向けて

今後のより良い哲学堂公園の保存活用に向けて、本質的価値を構成する諸要素の保存に関する事項を以下に整理する。

### (1) 哲学堂公園の所蔵品の整理と今後の展示

円了が国内外の周遊先で収集したものが、所蔵品として保管されている。

所蔵品の一部は、哲学堂公園内の六賢台や無尽蔵内に保管されているが、その他の多くは中野区立歴史民俗資料館や、東洋大学内に保管されている。

現在、こうした史料の一部はリスト化してあるが、所蔵品の全てを整理するには至っていない。円了や哲学堂公園に関する研究のためには、所蔵品の状態を含めて調査し、保管先や保管方法を整理することが望ましい。東洋大学においても円了に関する史料の調査を実施していることから、それぞれに分かれている史料の項目、保管先を整理する。

また、史料として重要なものは、今後の展示を含めて検討する。

### (2) 古建築物の調査と耐震補強

哲学堂公園内の古建築物は、明治から大正時代に建てられたもので、劣化や傷みなどが生じている箇所がある。円了は自らの『哲学堂独案内』で述べているように、私財を投じて建設した四聖堂などは予算を下げて建てている。

昭和 50 年（1975）に中野区立哲学堂公園となり、昭和 59 年（1984）には古建築物の 6 棟（四聖堂、六賢台、三学亭、宇宙観、絶対城）の調査を実施し、昭和 60 年（1985）から昭和 63 年（1988）にかけて、修復工事を行っている。その後、昭和 63 年には古建築物 6 棟（常識門、髑髏庵、鬼神窟、無尽蔵、演繹観、四阿）の調査を実施し、さらに、平成 29 年（2017）から平成 31 年（2019）にかけて四聖堂、絶対城、三学亭、宇宙観、哲理門と順次修復工事を行ってきた。

本保存活用計画では、これら古建築物については、七十七場の一つとして現状を調査し、保存の方法を整理した。古建築物は哲学堂公園における重要な文化財であることから、耐震性の詳細な調査を実施し、今後大規模な地震が想定されるなか、耐震補強などの検討を行っていく。

### (3) 劣化した石造物の保管と展示

屋外に設置されている石造物のうち、鬼燈、狸燈は劣化が激しく複製品を製作して展示し、現在設置されているものを風雨にさらされない場所で保管することが考えられる。

現在、哲理門内の天狗像、幽霊像は中野区立歴史民俗資料館に保管、期間限定で展示されているが、大きな石造物については、容易に保管できる場所が少ない。

今後は、石造物の展示方法も含めた保管場所を検討していく必要がある。

### (4) イチョウ並木の保全と名勝指定範囲の拡大

哲学堂公園のエントランスを演出するイチョウ並木の片側は、哲学堂公園の敷地及び名勝指定範囲外である。令和4年(2022)には民地内にあるイチョウが伐採されたことから、エントランスを修景するイチョウ並木を保全するためには、イチョウ並木を取り込むように哲学堂公園の用地を拡大し、あわせて名勝指定範囲を拡大することを検討する。